



龍源寺報

90号

深見山龍源寺二十二世重興大嶽豊成大和尚寺族 白雲院真月貞性禅尼 葬儀式厳修

十一月十八日に茶毘式、本葬儀と勤まり、近隣御寺院や親族、総代出入り梅花講など参列のもと厳かに儀式は修行されました。生前は多くの檀信徒より支えられながらも龍源寺を守ってまいりました。ここに皆様からの御厚誼に感謝申し上げます。初願忌以降の七日ずつの供養、四十九日大練忌、百日忌卒哭忌と勤まり、龍源寺寺族廟所に石塔建立開眼ののち、小祥一周忌に合わせ納骨の予定となっております。知人縁者檀信徒の皆様、故人にかわりまして重ねて感謝申し上げます。

令和六年十一月十五日、龍源寺先代住職寺族・桑原富が逝去されました。享年九十二歳でございます。十日町市より縁あって龍源寺に入り、長年先代住職を支えてまいりましたが、近年は介護施設のお世話になっておりました。元気な時は特に龍源寺の広大な境内の維持管理に大変な尽力がございました。

- 秉炬師 智泉寺御住職 田村泰宏老師
- 奠茶師 大龍院御住職 駒形和貴老師
- 奠湯師 龍昌寺御住職 山田隆二老師



詳細

講師 十日町市 洞泉寺副住職
石黒良和老师

日時 令和7年9月13日 土曜日
受付：9時半
開始：10時(1時間ほどの講演)
講演後、質疑応答の時間を設けます。

参加費 無料

対象 現在思春期の子供の保護者。
これから中学校に進学など
思春期を迎える子供の保護者。

締切 8月末日。

参加希望者は名簿を作る都合上、
龍源寺まで要連絡。

TEL : 025-765-3055



心の寺子屋塾 講演会

九月十三日(土)、龍源寺本堂にて、十日町市洞泉寺副住職、石黒良和老师をお招きして講演会を開催予定です。テーマは「思春期の心と親子関係」。石黒老師は僧侶の傍ら、臨床心理士・公認心理師として十日町市内の学校でスクールカウンセラーなどとして活躍されております。思春期の心情を理解し、人の成長過程において思春期の子供が抱える精神的な課題や葛藤について、そしてそこに親はどのように関わっていけば良いのかということについて講演をいただく予定です。私副住職も学生時代より日本におけるユング心理学の先駆けである河合隼雄先生の著作などを時々読みますので、非常に楽しみにしている講演です。ご興味のある方は龍源寺までご一報ください。



雪壁



豪雪



除夜の鐘



元朝祈禱

年末年始



大般若転読



三ヶ日年始

編集発行 龍源寺
曹洞宗 深見山
〒949-8311
新潟県中魚沼郡津南町
中深見乙1118番地
☎(025)765-3055



【公式HP】<http://www.shinkenzan.com>



【公式Instagram】@shinkenzan1582



積尊成道会厳修

令和六年十二月八日、龍源寺において積尊成道会が厳修されました。龍源寺副住職、妻有地域曹洞宗青年会の会長としての最後の事業でした。御本山などで修行される本式の形で法要が勤まりましたが、この十二月八日の明けの明星を見た時にお釈迦さまは忽然とお悟りになったと伝わっております。命日である涅槃会、誕生日である降誕会に続き、龍源寺でこのように三仏忌が修行されたことをありがたく思っております。ちなみにこの成道会是我々禅宗が伝来したことにより日本でも勤まることになったと言われております。



臘八摂心会

令和六年十二月一日より七日の一週間、龍源寺において龍源寺副住職が会長を務めております妻有地域曹洞宗青年会のメンバーとともに坐禅・臘八接心会が修行されました。夜の坐禅・夜坐のみでしたが、毎晩龍源寺に青年会が集まり坐禅に勤しみました。お釈迦さまは徹底した苦行の結果、それでは何も得られないことを知りその後、尼連禪河で沐浴中に過労で倒れてしまいました。運よくスジャータの乳粥をいただいたことで精気を取り戻したあと、菩提樹の下で十二月一日より十二月八日明けまで静かに坐禅を修行されたと伝わっております。その故事に倣い、曹洞宗の御本山などの修行道場では一日中坐禅を七日間修行いたします。私も大本山總持寺で二回、大雄山最乗寺で一回、臘八接心の修行機会に恵まれましたが、改めて得難き勝縁であったなと感じながらこの度の臘八接心を修行させていただきました。



托鉢出発前に般若心経



托鉢



だんごまき



ノブレス オブリージュ

珍しく横文字の紹介です。仏教語ではもちろんないので、仏教における利他行に近い考え方と感じましたので紹介させていただきます。

ノブレスオブリージュ (フランス語 noblesse oblige) とは、高い社会的地位にある者、権力者、財力のある者にはそれを保持するにあたって大きな義務や責任が伴うことを意味するフランス語です。

とある漫画で母親が子供に対してこのように諭す場面があります。「弱き人を助けることは強く生まれた者の責務です。責任をもつて果たさなければならぬ使命なのです。決して

忘れることなきように。」

またとある漫画で大きな力を宿したある女の子がその力に覚醒した時にこのように言葉を発します。

「自分に力があるなら...」

それに伴う責任を果たしたい。そう思うの...。お父さんやお兄ちゃんも同じことをすると思うから。」

共通するような語として「責務・責任」とあります。これからの未来を考えると、力のある人間は私利私欲に力を使うのではなく、責務や責任のためにこそ力を使うべきではないのか、それぞれの気持ちに

よつていくのでしょうか。またこのような言葉もあるそうです。

一流は金を遺す
二流は仕事を遺す
三流は人を遺す

人を遺すということは、人物を遺す、人材を遺す、の意であると思いますが、どの世界・分野においても一番難しいことなのだろうと感じます。しかしながら何よりも大切なことではないでしょうか。お寺も然りです。

参考文献 鬼滅の刃(集英社)
BORUTO TWO BLUE VORTEX(集英社)

